


 様々な情報を  
お届けします！

## CONTENTS

P2-ちいきを支えるちから

NPO法人はなのころ（いわき市）

P3-SDGs目標の2030までに今できること

P4-1.ちいきを支えるちから企業編

NOK株式会社（福島市）

2.助成金情報


**「登録」が被災地を救う鍵になる！**


## 被災者援護協力団体の登録制度

令和7年の災害対策基本法の一部改正により、災害発生時においてNPOやボランティア団体が迅速に被災地で活動できるよう、新たに「被災者援護協力団体」の登録制度が創設されました。

### 災害NPO・ボランティア団体の登録制度とは？

災害発生時に迅速かつ的確な支援を行うため、支援活動を担う団体等をあらかじめ国が登録・把握しておく仕組みです。令和7年7月より施行・運用が開始されました。

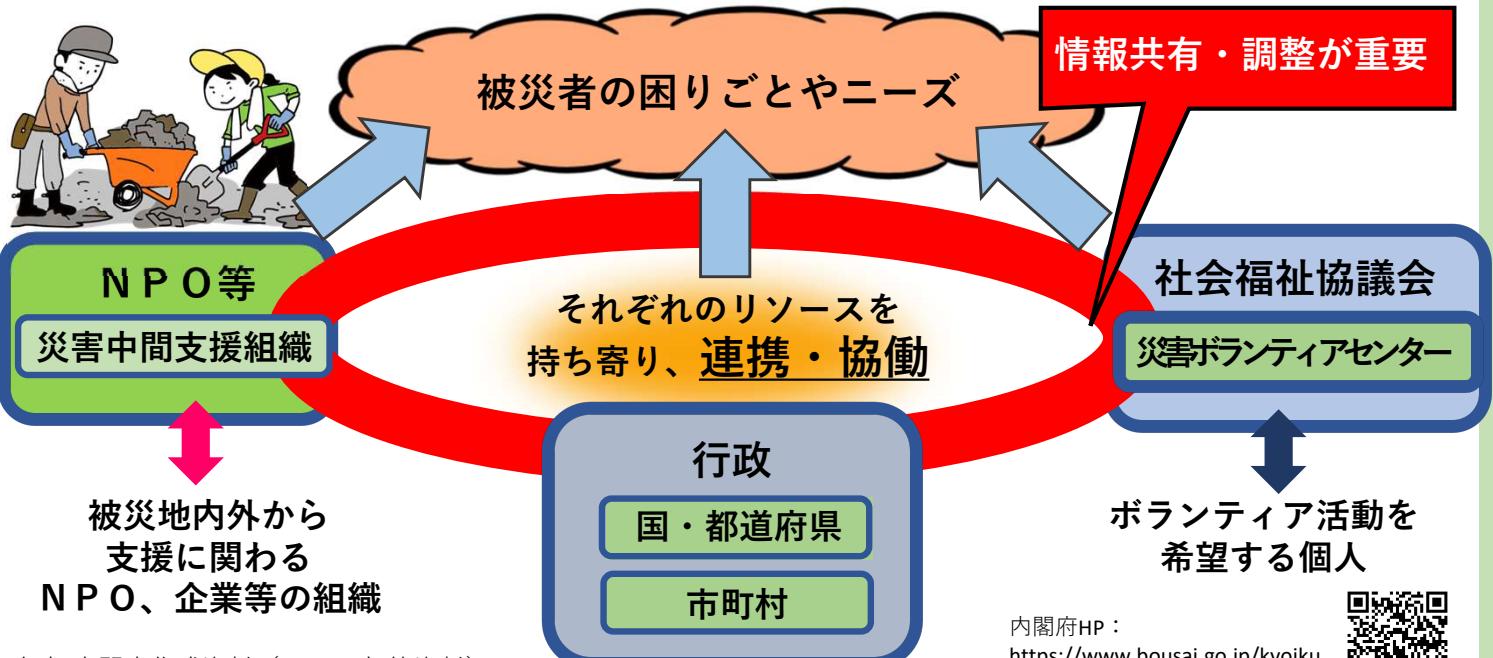
### 制度の目的は？

大規模災害が発生した際には、ボランティアやNPOなど多くの支援者が被災地に駆けつけます。しかしこまでは、各団体の専門分野や対応可能な支援内容、信頼性などを一から確認する必要があり、支援開始までに時間を要することが課題となっていました。

この制度では、平時から各団体が活動内容を登録することで、必要な支援を必要な場所へ、速やかにつなげられるようになります。これにより、災害発生時の支援をより円滑に行なうことが可能となります。

いざという時に被災者を確実に支えるため、平常時からの備えを進めていきましょう！

### 被災地支援のための行政・社協・NPO等の「三者連携」の必要性



# ちいきを支えるちから

地域に根ざし、様々な社会的課題を解決するために元気に活動しているNPOをご紹介します！

## 特定非営利活動法人はなのころ(いわき市)

～障がい者の夢を咲かせる！～

NPO法人はなのころは、主に障がい者によるアーティスト活動を応援するNPOです。2020年4月に任意団体として活動をはじめ、2024年11月にNPO法人化しました。障がい者が「好きなこと」、「得意なこと」で社会とのつながりを創出し、喜びや生きがいを生み出す活動を支援しています。

西山理事長に設立のきっかけをお伺いすると、精神障がいを患い、閉ざされた空間で30年以上過ごしたおじへの後悔の念があると言います。「どうして人生の最後ぐらい外の世界で好きな事をやらせられなかったのだろう。」障がいを持つ方に出会うたび、そのような思いが思い起こされるそうです。「好きな事を思いっきりやって、社会で夢をかなえてほしい」との強い願いが、活動の原点となっています。

主な活動内容は、障がい者の作品の発表の場をつくる「ギャラリー」、デジタルイラストを制作する「デザイン」、制作したデザインを用いたグッズ・アパレルを販売する「ショップ」、交流イベントを企画する「パーク」です。



商品はオンラインからも購入いただけます（右：西山理事長）



はなのころBASE外観

2025年4月には、いわき市平地区に交流ギャラリースペース「はなのころBASE（ベース）」を開所しました。障がいを持つ作家の作品展示やグッズ・アパレルアイテムの展示販売をしたり、ミニイベントを開催するなど交流の場となっており、同スペースには色とりどりの個性豊かな作品やグッズが数多く並んでいます。

また、企業等とのつながりも大切にしており、いわき市のホテルや旅館への作品展示、活動に賛同いただいている企業への絵画レンタルも実施しています。企業にとっては、社員や来客された方に楽しんでもらい、共通の話題としてお客様とのコミュニケーションにつながり、大きなメリットとなります。

福祉サービス事業所ではないため活動の自由度は高い一方、財政基盤や人材不足といった課題も抱えています。こうした中でも、より多くの皆様からの支援・協力の輪が広がるよう活動を続けていくと、西山理事長は語ります。

皆様もお近くを訪れた際は、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。



団体HP：<https://hananokoro.jp/>



# SDGs目標の2030までに今できること ～「高質な田舎」を目指して～

SDGsとは「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」の略で、日本を含む世界150カ国以上が合意した『2030年までに世界が達成すべき共通の目標』です。国連が2025年7月17日に報告した『持続可能な開発目標（SDGs）報告』では「軌道にのっているか緩やかに進捗しているターゲットは35%にとどまる」となっており「約束と目標達成を真に実現するため最後の5年間を最大限活用しなければならない」と報告がされています。

SDGsの達成目標年である2030年まで、残された時間はわずかとなりました。「今さら何をしても遅いのでは」と感じる方もいるかもしれません。しかし、持続可能な社会の実現は、特別な取り組みだけで成し遂げられるものではありません。

福島県に住む私たちは、これから「高質な田舎」を目指していくことが大切だと考えられます。高質な田舎とは、自然や人とのつながりを大切にしながら、暮らしの質を高めていく地域の姿です。過度に便利さを求めるのではなく、必要な機能が身近にあり、安心して暮らし続けられる環境が整っていること。そのためには、地域資源を活かすこと、支え合いの仕組みを守り育てること、そして次の世代につなげる選択をすることが欠かせません。

省エネルギー・ごみの削減、地域での買い物や地元産品の利用、災害への備えや人のつながりづくり。どれも小さな行動ですが、積み重なることで地域の力になります。2030年はゴールではなく通過点です。今からでもできることを一人ひとりが考え、行動することが、これから時代にふさわしい「持続可能な社会」を形づくっていきます。

## 「高質な田舎」とは…

### ○自然と共に暮らせる

緑や水辺、季節の変化を感じられる環境

### ○暮らしに必要な機能が身近にある

医療・食料品店・交通の便などが整っている

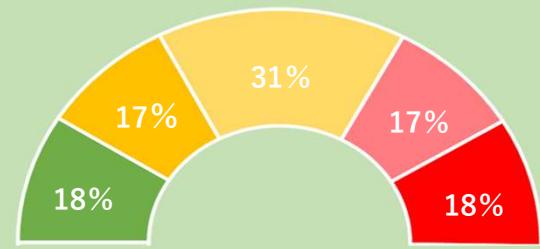
### ○人とのつながりや助け合いがある

地域で支え合える仕組みや関係性がある

### ○災害に備えた安心・安全な地域

防災や避難の体制が整っている 等

## 2025年7月までのSDGs進捗率



●軌道に乗っている ●緩やかに進捗 ●わずかに進捗 ●停滞 ●後退

参考：国際連合広報センター 持続可能な開発目標（SDGs報告）  
[https://www.unic.or.jp/activities/economic\\_social\\_development/sustainable\\_development/2030agenda/sdgs\\_report/sdgs\\_report\\_2025/](https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/sdgs_report/sdgs_report_2025/)

自分たちにできることから始めてみよう！

どんなことができるかな





## 「NOKこども食堂～まんまるひろば～」



NOK株式会社（福島市）では、社員食堂をリニューアルすることをきっかけに、人と地域に開かれた出会いの場づくりを構想し、その一環として、社員食堂を活用したこども食堂の取り組みを企画・運営しています。毎月1回程度の頻度で、福島市子ども食堂NET・一般社団法人CARNIVAL WORKSと連携・協力して開催しています。食堂には店長さんもおり、とても楽しげな雰囲気です。

この活動には、ダスキンレントオール様や株式会社ベジフル様も参加するなど、支援が徐々にひろがっています。まんまるひろばの名前には、同社の主力製品であるオイルシールの形状の意味もあります。社員同士の交流はもちろん、地域に開かれたこども支援の“輪”が益々ひろがることを期待します。



## 助成金情報

NPO関連の助成金情報については  
当センターのウェブサイトをご覧ください。  
<https://f-saposen.jp/category/subsidy/>



## ◇学術・文化・芸術・スポーツ

## 2026年度ポーラ伝統文化振興財団助成事業【公益財団法人 ポーラ伝統文化振興財団】

- 助成対象／日本の無形の伝統文化の保存・振興をはかるため、伝統工芸技術、伝統芸能、民俗芸能・行事の各分野で保存・伝承・振興活動および調査・研究活動において、有効な成果が期待できる事業に対し、補助的な援助を行うものを対象とします。

- 申込期限／2026年3月31日(火) ●上限金額／1件あたり30万円から200万円程度

- 参考URL／<https://www.polaculture.or.jp/promotion/jyoseiapply.html>

## ◇環境

## 2026年度緑の募金助成 一般公募【公益社団法人 国土緑化推進機構】

- 助成対象／森林ボランティア、里山保全団体、NPO等による以下の活動①国内外の森と人を元気にする活動②地球の緑を増やし、地球温暖化防止や生物多様性保全に貢献する活動③森づくりのリーダーを育てる活動④森や里山で子どもたちを育むことができる活動

- 申込期限／2026年3月15日(日) ●上限金額／1事業につき200万円(国際協力は300万円)

- 参考URL／<https://www.green.or.jp/bokin/volunteer/activity-support/r08>

## ふくしま地域活動団体サポートセンター

運営委託：福島県

運営受託：認定特定非営利活動法人ふくしまNPOネットワークセンター

〒960-8043 福島県福島市中町8番2号 福島県自治会館7階

TEL.024-521-7333 FAX.024-523-2741

E-mail [sapesen@f-npo.jp](mailto:saposen@f-npo.jp) URL [https://f-sapesen.jp/](https://f-saposen.jp/)

◆県内の認証NPO法人団体／928団体

◆認定NPO法人団体／23団体 ◆特例認定NPO法人／0団体

2025年4月30日現在

## 編 集 後 記

防寒具を買いまくるこの冬。寒さがこたえるお年ごろ？【内山】

赤べこのように働いて、はたらいて！？【伊藤】

今年度ご面識を頂いた皆さんとの縁、タカラです。【佐藤】

何を描くかで向かう方向性も変わる。私も高質な田舎に住みたいです。【斎藤】

何かと落ち着かない年度末、体調だけは万全に。【宍戸】

冬の寒さに寄り添いつつも春を待ちわびる毎日です。【本田】